

令和 5 年度統合型校務支援システムに係るアンケート調査結果概要

アンケート方式：Googleフォームによる匿名回答・選択式

対象者：システムを運用している全ての県立学校で、FCSアカウントを保有している教職員（5,846人）

調査期間：令和5年10月27日（金）～11月17日（金）

回答数：3,790件（回答率 64.8%）

【調査結果のポイント】 ※ ()は、令和4年度調査結果

- 統合型校務支援システムを利用している教職員のうち、44.1%(45.4%)が毎日利用し、61.8%(60.8%)が年間を通して平均的に利用している。
- 統合型校務支援システムの導入により業務負担が軽減されたと回答された割合は昨年度よりも全ての質問項目で増加しており、特に「指導要録」は77.3%(71.1%)の教職員から負担が軽減されたとの回答があった。
- 統合型校務支援システムの導入により、5段階で4以上の評価が、効率化で44.7%、負担軽減で42.7%、正確性向上で50.3%となり、総合評価の5段階では4以上が46.2%(32.3%)へと約14ポイント上昇するなど、肯定的な受け止めが広がっている。
- ネットワーク環境では、66.2%が支障なく利用できると回答している一方、33.8%が繋がりにくいと回答している。
- 以上のことから、統合型校務支援システムの導入により、教職員の多忙化解消に一定の効果があったことがわかる。今後は、使用するに当たってのネットワーク環境の改善など、更なる教職員の利便性向上につながるよう改善していきたい。

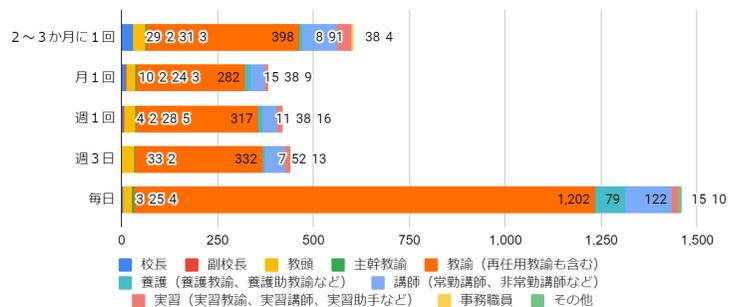


図1 利用頻度

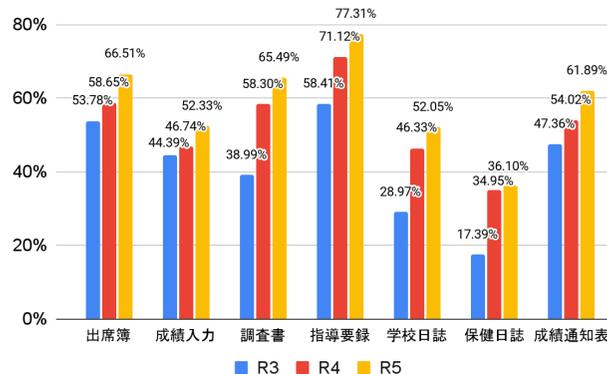


図2 負担の軽減効果(軽減された割合)

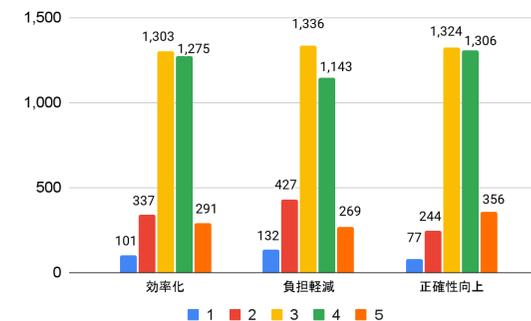


図3 評価

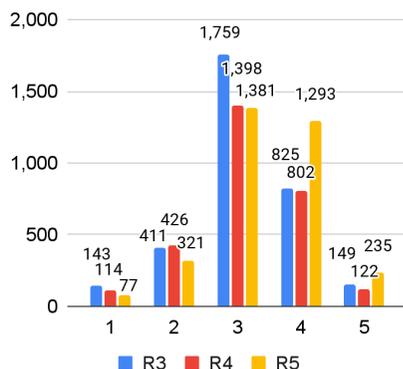


図4 総合評価

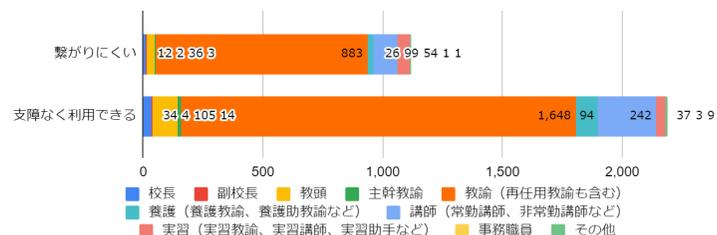


図5 ネットワーク環境

